

# 「令和5年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

## 1 はじめに

長洲町教育委員会では、長洲町の児童生徒の学力や学習状況がどのような状態にあるのかを把握し、指導の工夫改善等に生かすために、毎年実施される「全国学力・学習状況調査」を活用しています。

今回の調査結果を、全国や県及びこれまでの調査結果と比較することにより、教育施策の成果と課題の検証・改善や学校における教育指導の改善等に役立てていきます。また、町民の皆様と共有することで、長洲町の児童生徒の「確かな学力」の育成に共に取り組んでいきたいと思えます。

なお、今回の調査で得られた結果は、児童生徒の学力の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることを踏まえ、各教科での指導法等の工夫改善を図り、教育行政の施策に役立てていきます。

## 2 調査の概要

○実施日 令和5年4月18日（火）

○調査対象 小学校6年生、中学校3年生

(1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

・知識・活用を一体的に問う問題

(2) 質問紙調査（児童・生徒質問紙調査）

・学習意欲、学習方法、学習習慣、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

## 3 調査結果の概況

(1) 教科に関する調査

①小学校6年生（国語・算数）

	国 語	算 数
全国平均正答率(公立)	67.2	62.5
町平均正答率	67.0	62.0

②中学校3年生（国語・数学・英語）

	国 語	数 学	英 語
全国平均正答率(公立)	69.8	51.0	45.6
町平均正答率	68.0	46.0	34.0

※英語は「話すこと」を除く

(2) 質問紙調査の結果より

○小学校（児童質問紙調査より）

質問項目で「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」が、全国平均を上回った又は下回った主な項目

【上回った項目】

◎自分には、よいところがあると思えますか。

- ◎先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
- ◎将来の夢や目標を持っていますか。
- ◎学校に行くのは楽しいと思いますか。

【下回った項目】

- ▲家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)
- ▲新聞を読んでいますか。
- ▲読書は好きですか。

中学校 (生徒質問紙調査より)

質問項目で「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」が、全国平均を上回った又は下回った主な項目

【上回った項目】

- ◎将来の夢や目標を持っていますか。
- ◎いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- ◎家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)
- ◎人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

【下回った項目】

- ▲自分には、よいところがあると思いますか。
- ▲学校に行くのは楽しいと思いますか。
- ▲新聞を読んでいますか。
- ▲読書は好きですか。

## 4 成果と課題

小学校

教科に関する調査『国語』の結果では、学習指導要録の内容「知識及び技能」については、全国平均正答率とほぼ同じであった。

一方、「思考力、判断力、表現力等」において、「話すこと・聞くこと」については、全国平均正答率を上回った。しかし、「書くこと」については、全国平均正答率を大きく下回っており、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる力を日々の授業の中で培っていく必要がある。

『算数』の結果では、学習指導要領の領域「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」すべてで、全国平均正答率とほぼ同じ結果であり、各領域における基本的な学習内容は理解できているものと思われる。

細かい部分を見てみると、グラフの読み取りや与えられた条件をもとに、見出した違いや理由を言葉と数を用いて記述する部分に課題が見られた。日々の授業の中で、自分の言葉でまとめたり表現したりする力を培っていく必要がある。

## ○中学校

教科に関する調査『国語』の結果では、学習指導要領の内容「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」のすべての内容で、僅かではあるが全国平均正答率を下回った。中でも、「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する事項」、「思考力・判断力・表現力等」の「書くこと」において、やや全国平均正答率との開きが見られた。

一方、「記述式」問題では、全国平均正答率を上回っており、文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたり、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えたりする力があると考えられる。

『数学』の結果では、学習指導要領の領域「データの活用」において、全国平均正答率を上回ったものの、他の「数と式」「図形」「関数」では、すべての領域で全国平均正答率を下回った。特に、「数と式」「図形」については、全国平均正答率を大きく下回る結果となった。

問題形式では、全体的に「記述式」問題での誤答や無答が多く見られることから、問題解決の過程や結果を振り返って考え、事柄が成り立つ理由を説明するなどの力を身に付けていく必要がある。

『英語』の結果では、学習指導要領の領域「聞くこと」「読むこと」「書くこと」すべてで、全国平均正答率を大きく下回った。特に、「読むこと」「書くこと」においては、正答率が全国平均を10ポイント以上下回る結果であった。

今回、出題の問題形式においても「選択式」「短答式」「記述式」すべての形式で、全国平均正答率を大きく下回っており、中でも「記述式」の「書くこと」の領域では、無回答も多く見られたことから、まずは日々の授業において、基礎的・基本的な内容をしっかりと身につけていく必要がある。また、生徒質問紙の結果から、「英語の勉強が好き」「英語の授業内容が分かる」の肯定率が、全国平均と比べ低い結果にあることから、英語への興味・関心を高めていく授業改善も必要であると考えられる。

## 5 今後の対策

今回の調査結果から、教科に関する調査では、小学校において「国語」「算数」とともに、全国平均正答率とほぼ同等の結果であった。一方、中学校においては、「国語」では全国平均正答率をやや下回る結果であったが、「数学」では全国平均正答率を5ポイント下回り、特に「英語」では全国平均正答率を10ポイント以上下回る結果となった。

町教育委員会では、今回の「教科に関する調査」及び「児童・生徒質問紙調査」の結果を真摯に受け止め、各学校においても結果を詳細に分析し、町学力向上対策委員会等を開催し、成果と課題を明確にしながらか、引き続き「誰一人取り残さない学びの保障」「教員一人一人の授業力向上」に向けた具体的な取組を行っていく考えである。

また、家庭学習の充実に向けて、学校と情報を共有し、家庭との連携を図りながら、より効果的な取組を進めていきたい。

そして、学習指導はもちろんのこと、まずは子供たちが「学校に行くのが楽しい」と思える学校づくりを基盤とし、引き続き子供たち一人一人に寄り添い、子供たちの瞳が輝き、笑顔で前向きに学校生活を送ることができるよう教育委員会としても各学校とさらに連携を深めていきたい。